

道北地域の景気の基調判断を上方修正しました（7月）

皆さん、こんにちは。いつもこのサイトをご覧いただき、誠にありがとうございます。

さて、7月1日に公表しました「[金融経済概況（道北地域）](#)」では、道北地域の景気の基調判断を上方修正し、「観光や個人消費を中心に東日本大震災の影響による下押し圧力が続いているが、下げ止まりの動きもみられる」としました。上方修正は2009年12月以来19か月振りです（もっとも、上方修正といっても景気が回復した訳ではなく、震災による強い景気下押し圧力が弱まりつつあるに過ぎません）。

震災の影響は観光や個人消費を中心に引続き大きなものとなっています。5月の新車登録台数は3か月連続して大幅な減少となりました。観光面では海外・道外観光客の大幅な減少が続く中、連休後は道内観光客も減少し、5月の宿泊客数は減少しました。客単価も低迷が続いています。

一方で、濃淡の差はありますが、震災に伴う景気下押し圧力が弱まりつつある動きもみられています。代表例が自動車販売です。自動車の生産が回復に向かうにつれて、新車登録台数の減少幅は縮小しつつあります。生産面では、紙・パルプや合板で被災地工場の肩代わり生産や復旧需要対応による増産の動きが続いています。5月に売上げが減少した大型店売上高でも、「売上げ減少は天候不順（低温・断続的な降雨）から衣料品等季節商品が不振であったことが主因で、震災の影響は一部（観光客向け菓子類等）でみられているが、全体では薄まっている」状況です。一方、観光は旭山動物園の入園者数が大幅に減少しているほか、海外観光客も極めて大幅な減少が続いており、厳しい状況にあります。ただし、空港利用客数の減少幅が緩やかながら縮小しつつある（空港利用客数前年比 3月△28.2%→4月△24.9%→5月△23.1%）など、底這いに近い動きではありますが、震災直後の状況に比較すれば方向としては改善に向かっていると考えられます。

なお、本日公表された6月短観結果をみると、足もとの業況判断D.I.は、建設や卸売で悪化したものの、食料品や木材・木製品が震災特需（被災工場の肩代わり需要、復旧需要、震災に伴うミネラルウォーター需要）から改善し、全体でもほぼ横ばい（若干改善）となりました（2011年3月△34%ポイント→2011年6月△33%ポイント）。業況判断D.I.の先行き予測は、震災特需の剥落に伴い再び悪化（△39%ポイント）を見込んでいますが、3月短観における6月の予測（△42%ポイント）よりは若干改善しています。短観の結果をみても、少なくとも震災による景気下押し圧力がここにきて一段と強まっている状況ではないことが確認できます。

この間、雇用環境（改善の動きがみられており、厳しさの程度は幾分和らいでいる）における改善は、5月も続いています。住宅投資（緩やかに持ち直している）は5月で6か月連続の増加となりましたので、判断（先月までは「下げ止まっている」）を引き上げました。一方、5月の公共工事請負金額が増加しましたが、単月の振れであって、公共投資は基調として減少しているとみています。なお、農作物の生育は、は種の遅れから遅れていますが、6月15日時点では、気温の上昇とともに少し回復しました。

個別の動きについてのコメントは、下記の通りです。

- 個人消費は、耐久消費財を中心に震災の影響がみられ、弱い動きとなっておりますが、一部で下げ止まりの動きもみられています。5月の新車登録台数（含む軽乗用車）は、震災に伴う自動車生産の大幅な落込みから納車が遅れ、3か月続けて極めて大きな減少となりました（ $\Delta 41.6\%$ ）。ただし、減少幅は自動車生産の回復に伴い、4月（ $\Delta 61.4\%$ ）に比較し縮小しました。自動車生産は予想以上のペースで回復しつつありますので、納車の遅れの解消とともに新車登録台数は次第に回復していくことが見込まれます（なお、昨年7、8月の新車登録台数はエコカー補助金切れ前の駆け込み需要で嵩上げされた $\langle 2010$ 年7月 $+22.9\%$ 、8月 $+38.9\%$ \rangle 関係上、2011年7、8月の前年比減少幅は実勢より大きめに出ることになります。今後公表される7、8月の新車登録台数については、この点も勘案して数字を解釈する必要があります）。

5月の大型店売上高は、 $\Delta 4.1\%$ の減少となりました。5月は気温が上昇せず、断続的な降雨に見舞われたため、季節商品（初夏ものの衣料や身の回り品）を中心に減少しました。また、昨年に比べ休日が1日少ない（2010年の13日に対し、2011年は12日）ことを指摘する声も聞かれました。震災の影響については、「一部（観光客向け菓子類等）でみられているが、全体では薄まっている」、との声が聞かれました。

観光は、海外・道外観光客の大幅な減少から厳しい状況が続いています。連休中は道内観光客に動意がみられ、観光客数の減少に歯止めがかかりましたが、「連休後はイベント需要を除けば客数が減少し、客単価も低迷が続いているため、採算的には大変厳しい」、との声が聞かれました。5月の旅館は、宿泊客数が概ね2割程度減少しました（5月の宿泊客数前年比：層雲峡・白金地区 $\Delta 22.4\%$ 、網走・温根湯地区 $\Delta 17.6\%$ \langle 国際観光旅館連盟北海道支部調べ \rangle ）。旭山動物園の入園者数も、週末の悪天候もあって5月は $\Delta 23.5\%$ と再び大幅に減少した後、6月も減少が続いています。国際チャーター便の回復テンポがごく緩やかである（旭川空港公表の国際チャーター便就航予定：5月1便 \langle 昨年同月実績9便 $\rangle \rightarrow$ 6月6便 \langle 同13便 $\rangle \rightarrow$ 7月7便 \langle 同68便 \rangle ）ため、海外観光客は引続き大幅な減少が続くことが予想されますし、関東等道外観光客の避暑需要の取り込み（「夏は涼しい北海道に」）については、夏期休暇の長期化で国内よりも海外を愛好する動きもあって、今のところなかなか思惑通りにはいっていないようです。ただし、底這いに近い動きではあるものの、空港利用客数の減少幅が緩やかながら縮小しつつある（空港利用客数前年比 3月 $\Delta 28.2\%$ \rightarrow 4月 $\Delta 24.9\%$ \rightarrow 5月 $\Delta 23.1\%$ ）など、震災直後の状況に比較すれば方向としては改善に向かっていると考えられます。

- 6月15日現在の農作物の生育状況を見ると、畑作では馬鈴しょ、たまねぎ、豆類、牧草等の生育が5月の低温や断続的な降雨の影響に伴うは種作業の遅れから遅れています。ただ、6月に入り特に上旬中は気温が上昇したため、遅れは幾分回復しました。水稻も移植作業が平年よりやや遅れていましたが、生育については平年並みとなっております。

- 雇用環境は、5月の常用新規求人数が全ての地区で増加したほか、有効求人倍率も、全ての地区（旭川、稚内、北見、網走）で前年同月を上回るなど、改善の動きがみられており、厳しさの程度は幾分和らいでいます。
- 住宅投資は、緩やかに持ち直しています。政策効果（フラット35S、住宅版エコポイント）も下支えし、5月の居住用建築確認申請（床面積）は+9.7%と、6か月連続のプラスとなりましたので、判断（先月までは「下げ止まっている」）を引き上げました。
- 製造業では、紙・パルプや合板で被災地工場の肩代わり生産や復旧需要に対応した増産の動きが続いています。一方で、需要構造の変化（売れ筋商品の変化）に伴う需要減少から生産を減少させる動きがみられています。
- 公共投資は基調として減少しています。公共工事請負金額は4月に減少した後、5月は大幅に増加（+63.1%）しました。しかしながら、2011年度北海道関係事業費（直轄事業）が5%の執行留保となる等、公共事業費抑制が続く中、5月の公共工事請負金額の増加は偶々大型工事の請負があったことによる一時的な振れであるとみています。

ところで、6月24日に旭川市の駅前買物公園通りに、「フィール旭川」（2年前に閉店した旧丸井今井旭川店の建物を改修）がプレオープンしました。旭川市初の出店となるテナント（ジュンク堂書店、セイジョー）を含め、個性的な店舗が集まりました。全館オープンとなる9月までに市の施設やコールセンターなども始動する予定です。24日は当市で結成された「安全地帯」のチャリティー・コンサートが、24～26日には買物公園まつりが開催され、多くの人出でにぎわいました。モータリゼーションの進行と郊外型ショッピングセンターの発達に伴い、全国的に中心市街地の衰退が問題となる中、旭川市では旭川駅改築、駅前の氷点橋の開通、そしてフィール旭川のオープンと、中心市街地の活性化に向けた取組みが着々と進められています。駐車場の整備等克服しなければならない問題はありますが、今回のオープンが、活気と魅力に溢れた街作りにつながることを期待したいと思います。

2011年7月1日
荒木 光二郎